

大槌町教育委員会だより



# 櫛の梢から



## これからも地域で子どもたちが スポーツ・文化芸術活動に取り組めるように ～部活動の地域移行に向けた取り組みが始まっています～

全国的に少子化の進展で学校単位での部活動運営が困難になる中、公立中学校の部活動を地域団体や民間事業者に委ねる「地域移行」に向けた取り組みが始まっています。スポーツ庁と文化庁は、2023～2025年度の3年間で「改革集中期間」に設定し、25年度末までに休日の部活動指導を地域に移行する改革を提言しています。これを受けて、町は今年度から、スポーツおよび文化芸術団体などの代表者、部活動指導者、保護者および学園関係者からなる「町部活動検討委員会」を立ち上げ、部活動の地域移行の可能性や具体的な姿について、様々な意見を出し合いながら検討しています。



### 町民の皆さんからのアイデア・提案を募集しています！

部活動の地域移行に向けた取り組みはまだ始まったばかりで、今後、町民の皆さんからも、実現に向けたアイデアや提案を広く募りながら、可能性や具体的な姿を探っていきたくと考えています。アイデア・提案をお持ちの人や、取り組みにご協力いただけるスポーツおよび文化芸術（郷土芸能などを含む）団体などの関係者の皆さんは、右記QRコードをご参照いただくか、教育委員会学務課までご連絡ください。



学務課 Tel 0193-42-6100

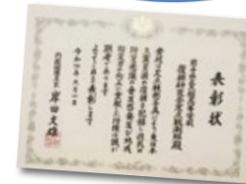
## 大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校のnoteでも行事などの様子を発信しています！

## 祝！復興研究会「定点観測班」 防災功労者内閣総理大臣表彰受賞！



本校の復興研究会「定点観測班」が、2022年の防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。この表彰は、日ごろから防災思想の普及や防災体制の整備に尽力、または災害時における防災活動に顕著な功績のあった個人・団体に対して行われるもので、震災後から継続して町並みの変化を記録してきた「定点観測」の活動が評価されました。

表彰式は9月13日(火)に総理大臣官邸で行われ、校長が代表して参加しました。9月16日(金)には、校長と復興研究会の顧問、代表生徒が大槌町庁舎を訪問し、町長に受賞を報告しました。これまでの活動を支えてくださった多くの皆さんに感謝し、今後の活動も精力的に行ってまいります。今回は、復興研究会の活動と、活動に参加する生徒の声を紹介します！



### 復興研究会は こんな活動をしています！

復興研究会の活動は今年度で10年目となり、定点観測や震災伝承活動、防災教育などに取り組んでいます。現在は、65名の生徒が、4つの班に分かれて活動を行っています。

#### 1. 定点観測班

2013年から継続して行っている活動で、年3回、大槌町内の180箇所のポイントから写真を撮影し、変わりゆく町並みを記録しています。



#### 2. キッズステーション班

避難所運営時に行っていた子どもたちとのふれ合い活動を継続しています。現在は年2回、夏休みと冬休みに町内の児童関連施設の子どもたちと交流しています。



#### 3. 他校交流班

県内外問わず毎年多くの高校に来校いただき、交流活動を通して復興の取り組みを伝えています。今年度は6月に釜石高校と交流しました。



#### 4. 広報班

復興研究会の活動の様子をまとめた「復興研究会だより」を定期的に作成し、校内にて展示しています。今年度は、これまでに2回発行しました。



### 大高生にインタビュー

復興研究会に所属し、定点観測の活動に積極的に参加している2年生の山崎成美さんやまざきなるみに、復興研究会の活動に参加する理由や、得た学びについて、語っていただきました！



#### Q. 定点観測の活動に参加しようと思った理由を教えてください。

中学生の時に参加した「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」をきっかけに防災に興味を持ち、高校でも防災に関する活動を頑張りたいと思っていました。定点観測は、復興研究会の中でも、震災や防災のことを一番深く考えられる活動だと思い、1年生の頃から毎回参加しています。

#### Q. 実際に参加する中で考えたことや感じたことを教えてください。

定点観測で撮影した写真が残ることは、震災の記憶の風化防止に役立つと考えています。東日本大震災の記憶があるのは私たちの世代が最後で、今後は震災の経験がない人が増えていきます。私自身も、先輩たちが撮影してきた写真があるお陰で、震災後に建物が何も無くなってしまった様子や、復興の過程を知ることができ、防災意識を高めることにつながっています。現在私たちが撮影している写真も、将来これを見る人たちの役に立つことを信じて活動を続けていきたいと思っています。

#### Q. 今後の目標を教えてください。

私は、マイプロジェクトの活動も防災をテーマにして行っており、現在は、「避難したくてもできない状況にある人を、どのようにサポートするのか？」という問いについて考えています。定点観測を通して得た学びやできた繋がりを活かして、地域の人たちに貢献できるような解を見つけたいと思います。